

行政視察報告

【視察場所】宮城県名取市、石巻市、仙台市

【視察者】森本茂樹、土井正純、中田光政、小田晃士朗

【東日本大震災の復興状況について】

●視察日：2015/8/17 13:30～15:30

●視察先：宮城県名取市

説明者：宮城県名取市議会事務局 事務局長 今野博幸様

宮城県名取市震災復興部 復興区画整理課 工事管理班 班長 大友博明様

1、目的

震災の状況を実際に感じ、各議員の防災に対する危機管理意識を高め、
呉市で災害が起こった際にどのような対応をするべきか参考にするため。

2、概要

① 名取市役所にて説明を受ける。その後質疑応答。

<東日本大震災>

■発生日時：平成23年3月11日（金）14時46分

■発生場所：三陸沖（牡鹿半島の東南東約130km）、深さ24m

■規模：モーメントマグニチュード9.0

■震度：6強（名取市での震度）

<名取市への津波>

■到着時刻：15時52分（本震発生後1時間6分）

■最大浸水高：9.09m（関上漁港付近の建造物の漂流物の計測による。）

■海岸からの最大浸水距離：約5km（河川では名取川約8km、増田川約7.6km）

<名取市被害状況>

■死者：923人

（市内で遺体が発見された方：832人、市外発見53人、遺体発見なし38人）

■被害状況：13,991件

（全壊2,801件、大規模半壊136件、半壊910件、一部破損1,386件）

<名取市震災復興計画>

■名取市第5次長期総合計画（平成23～32年度）をふまえ、

復旧・復興に関する震災対策の特別計画

■「再生期」「展開期」「発展期」の計7箇年

*再生期：社会・経済基盤の再生

*展開期：日々の生活の充実

*発展期：新たな魅力の創造

■暮らし、産業、まち、の復興

*暮らし：互いに支え合いの強い絆で結ばれた暮らし

*産業：地域資源と仙台空港を活用し、集積・連携

*まち：多様な世代が未来を感じて安心して暮らせるまち

② 本市において一番被害があった閑上地区へ直接の視察。

閑上地区の仮設住宅、第二次防衛ラインとされている地盤上げ範囲に入る建設中の小中学校、ゆりあげ港朝市、閑上地区震災慰霊碑を周る。

③ 質疑応答

Q 震災復興計画は議決事項にして決定をしているそうだが本市は議決事項の拡大に入れたということでもいいのか？また変更の場合、議決を何度もしないといけなくなると思うが、どれくらいしたか。

A あくまで復興計画の基本計画だけ議決案件。特別計画の議決事項はそれのみの議決となります。

Q パブコメの件数が多いと思うが、どのような意見があったか？

A どれくらい数を集めればいいのか参考になるものがなく、困った。全て聞くことを意識して行動した。100人会議は主に閑上地区の住民。

Q 被災前より人口が増えているがなぜか？

A 個人的解釈であるが福島から来た方が多く見られる。

震災前から山手で区画整理事業があり、受入のための募集を既にかけていた。
海周辺より山手のほうがいいという被災者意識で希望が高かったのではないかと。

Q 建築基準法危険区域とは？

A 一般住居を建てていけないという指定区域

3、まとめ

東日本大震災から約4年と5ヶ月。広島に住む我々にとっては遠い地での出来事であるように思う事もあるだろうが、実際、ただただ広い平地となった名取市閑上地区に立つと、

当時の悲惨な状況が脳裏に映し出される。予測不可能な大規模災害は、未然に防ぐことは難しいが、その後の迅速な対応と、この教訓を生かした防災設備の充実が求められる。

名取市では驚くことに被災前に比べ人口増加が見られる。要因として2つ、①住宅地区の整備が以前から進められ、他の被災者の受入が早く行われたことと、②そもそも仙台空港や仙台市へのアクセスなどインフラ面が整っており、環境が整っていることが挙げられる。

広島県全体において津波災害の可能性は低いが、突発的な豪雨による土砂災害に留意しなければならない。名取市のように上記予期せぬタイミングではあったが、事前に県内外他市の受入ができる環境や土地など、事前準備が必要である。財源や土地の問題で現実的ではないが、近年の異常気象において自らの都市だけではなく、他市との相互協力、そしてその精神が、より必要になってくる。

最後に、この災害に対する意識を呉市民全体が共有し、行政と一体となって、未来の防災都市呉市を作り上げていきたい。

【商業ビルの庁舎移転、議会の災害対応について】

●視察日：2015/8/18 10:00～12:30

●視察先：宮城県石巻市

説明者：宮城県石巻市議会事務局 事務局長 門間泰則様

1、目的

呉市では新庁舎建設決定しており移転という選択肢はなくなったが、効率的に施設を利用するための知識醸成と、震災復興における議会の役割について探求し、呉市の災害対策にいかす。

2、概要

① 市役所にて研修

I、商業ビル庁舎移転について

<移転背景>

平成5年新庁舎建設用地として大橋地区に用地を取得したが、住民サービスに直結する事業や地域振興に資する事業を最優先とする施策の選択により、他の大型事業が優先された。そのため、厳しい財政状況から話が頓挫していたが、平成20年3月さくら野東北株式会社からさくら野百貨店石巻店の建物及び2億円の寄附を受け、市民の利便性、財政面、中心市街地活性化への貢献度を鑑み、同年6月、当場所を新庁舎移転先と決定した。

※現在職員数は嘱託も含め約1,000人。

<事業費の比較>

■商業ビル庁舎：約 30 億

■新庁舎建設：約 90～100 億

<1階商業スペースについて>

石巻市中心市街地活性化協議会において「生鮮食品の販売など、土日も活用できる集客施設としての活用方策を考えるべき」という多くの意見を尊重した背景がある。しかし、庁舎として活用する際に必要とされる 20,000 平方メートルを確保できなくなることから 1階部分のみを商業施設として活用すべきとの結論に至る。

<商業スペース事業者決定>

方法はプロポーサル、2社競合（指名9社中）。株式会社ステップに決定。現在テナント数は9社。大型店としての管理運営ノウハウをもつ事業者に一括して貸し付けることが妥当であると判断し、市内において食料品を中心に扱うショッピングセンター及びスーパーマーケットを営む管理運営事業者を指名。

II、石巻市議会災害対策指針について

<石巻市被災状況>

■直接死 3,277 人、間接死 268 人、行方不明者 428 人

■全壊約 20,000 戸

※現在 4,500 戸の公営住宅建設予定だが、1,000 戸供給止まり。まだ 9,000 世帯が必要としている。予定未達成の要因としてマンパワー不足、資材の高騰、区画整理の難航が原因あげられる

<石巻市議会災害対策会議設置要綱>

第1～6条で構成され、趣旨・設置・所掌事務・組織・役割を定める。

平成 25 年 11 月 1 日から施行される。

■議員の対応（指針より）

*震度 6 弱以上の地震が発生したときは、自ら議会事務局へ安否と所在を連絡する。また、対策会議設置後は連絡体制を確率する。

*地域における被災者の安全の確保や、避難所への誘導等にできる限り協力する。

*地域における被災状況や被災者の要望等の情報収集に努め、必要に応じて災害対策会議に情報提供を行うとともに、地域の一員として避難所支援など共助の取組が円滑に行われるよう、できる限り協力する。

② 庁舎内、周辺、駐車場を歩いて視察。

商業スペースの特産品販売、その横にはそれを生かした飲食店などがあり活気があった。また百貨店ならではの作りを生かしたエスカレーターは市民の活用が多く見られる。

駐車場との連携が分かりにくいですが、バリアフリーなど設備は充実していた。

③ 質疑応答

Q 百貨店は窓がないイメージがあるが、構造上どのように改善しましたか？

A 百貨店という建物の構造上、窓が極端に少ないため、証明や空調の再配置を行い、執務室はカウンター方式によるオープンフロアとして、課ごとの壁は設けず低い書棚での仕切りとすることで、見晴らしがよく圧迫感を軽減する改善が図られた。

Q 市民開放スペースが多いが、食堂という新しい設置が呉市にはあるがそちらはどうか？

A 食堂はない、周辺に食べに行ったり、1階の商業スペースに買いにいたりする。一部分は飲食店が入っていたりするのでそちらを利用する。

Q 商業施設1階のことだが、賃料はいくらですか？

A120万円/月市民要望など高く、中心市街地活性化、マーケットをなくさないよう減免措置を行っている。電気・水道は別料金。

3、まとめ

石ノ森章太郎の代表作である仮面ライダーのマネキンが我々を迎える石巻市役所は、石巻駅のすぐ目の前にある。入ってすぐの1階はスーパーや飲食店のテナントで出迎えられる、とても2階以降に市役所機能が凝縮されているなど思いもしなかった。

市民により便利で誰もが来やすい場所、そして財政も考え、市民に納得してもらえる一番の選択である。そうおっしゃる石巻市の担当者の話を聞き感銘を受けました。一方で働く側のステークホルダーは、より綺麗で機能的なオフィスを望む声も多いのではないかと考えたが、職員の皆様も市民。市民が充足することが職員の満足につながっていると感じた（買い物して帰る、駅近で通勤が便利）。

また、議会の災害対策マニュアルについてだが、やはり議員は非常勤であるが故に全体を統べるマニュアルというのは難しいとの印象を受ける。主観であるが被災地の各要望を市議会議員が県・国へと直接的に要望をあげ、行政側が知らない間に物事が進んでいるなどの錯誤があると話を聞くが、災害対策会議を設置することは、このことに対して、一度情報を集積し優先順位をつけ要望を上げることができる大きなメリットがある。

行政の対策本部と議会の対策会議の信頼関係を持って、迅速に対応できることが一番であり、呉市においても石巻市の事例は参考にできる。

【仙台市博物館】

●視察日：2015/8/18 14:00～16:00

●視察先：宮城県石巻市

1、目的

観光客事業において考察する。

2、概要

昭和 26 年に仙台伊達家から寄贈された資料群（伊達家寄贈文化財）の保管・展示・研究のために、仙台城三の丸跡に昭和 36 年に開館。昭和 61 年には同地に全面新築、現在に至る。延床面積 1 万 800 平方メートル、総 2 階、鉄筋コンクリート。

ユネスコ記憶遺産に登録された<国宝 支倉常長像>など 3 点を含む国宝 慶長遣欧使節関係資料や、重要文化財の伊達政宗所用具足・陣羽織、豊臣秀吉所用具足、三沢初子所用帯などの他、仙台伊達家からの寄贈資料をはじめ、江戸時代を中心とした仙台藩に関わる歴史・文化・美術工芸資料など約 9 万点を収蔵する。常設展示は季節ごとに展示替えを行い、随時約 1000 点を展示している。

加えてこの度は歌麿、北斎、広重などの浮世絵作品を特別展示。

3、まとめ

仙台博物館はなるべく本物を見ていただくことを念頭に、複製でなくほとんどが本物を展示している。本物の資料は、長い歴史を経てその時代の人の営みや社会の様子など、多くのことを語りかけることができるものであり、非常に効果的である。

今回は大きな企画展が開催されており、多くの来客があったと思います。呉市におきましても、様々な企画をもって集客に今以上に努めて頂きたいと存じます。